

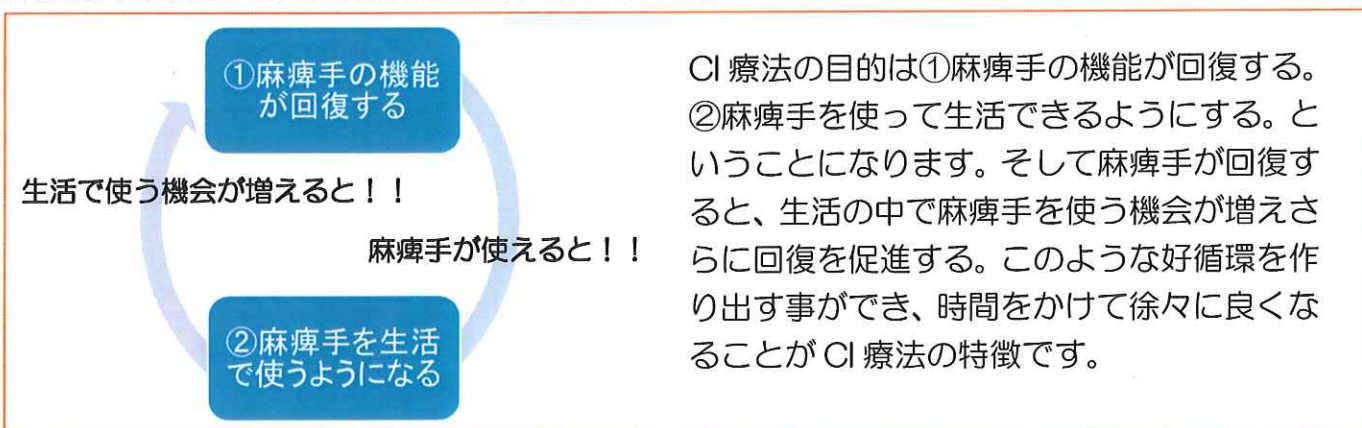
連続シリーズ

偕行会リハビリテーション病院 新たな取り組み



CI(シーアイ)療法について

今回は CI 療法の実践報告です。入院中に CI 療法を実施し、退院後も効果が持続した方を通して CI 療法の特徴と目的をお伝えさせていただきます。



右の写真は CI 療法を受けていただいた前後とその後 1 ヶ月、3 ヶ月後です。麻痺手の回復はもちろんですが生活でしっかりと麻痺手が使えるようになっていきます。このように CI 療法終了後も好循環によって生まれた麻痺手の使用サイクルが定着し、回復が促進されていることが確認されています。しかし、まだまだ麻痺手の回復は途中です。今の目標は麻痺手で包丁を持ち料理をする事です。その目標に向けて前進中です。

まとめ
CI 療法の効果は個人差がありますが、いずれの方も麻痺手の回復と生活への参加を認めています。私たちが大切にしている事は、目標をしっかりと定める事とその目標を共有し一緒に向かう事です。その場限りのリハビリではなく、その先へと向かう姿勢を後押しする取り組みだと思っています。



開始時、麻痺手が伸びずに体ごと動かしています。



CI 療法終了時、麻痺手を体から離して動かしています。



終了後 1 ヶ月、麻痺手が動きやすくなりコップで水が飲めるようになっています。



終了後 3 ヶ月、麻痺手の指が動き書字が出来るようになっています。